

題材の目標

- (1) 構図や余白、折りによる空間や奥行き表現などが感情にもたらす効果、造形的な特徴などを基に、よさや美しさなどを全体のイメージで捉えることを理解することができる。
- (2) 日本の文化遺産である屏風から、表現のよさや美しさなどを感じ取り、余白や折りによる作者の意図と工夫、美術文化について考えるなどして、見方や感じ方を広げることができる。
- (3) 造形的なよさや美しさを感じ取り、余白や折りによる作者の意図と工夫、美術文化について考えるなどの見方や感じ方を広げる鑑賞の学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

【準備等】 参考資料、ワークシート、タブレット端末、筆記用具

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 美のしかけを知り、作者の意図をくみ取る。</p> <p>★折りや余白を考えた構図の工夫による効果を考えよう。</p> <p>○屏風の役割と名称の確認をする。また、屏風と衝立の違いも確認する。</p> <p>○俵屋宗達「風神雷神図屏風」と狩野永徳「唐獅子図屏風」を鑑賞し特徴を探る。</p> <p>○俵屋宗達の「風神雷神図屏風」のどちらが風神でどちらが雷神なのかを確認する。</p> <p>○俵屋宗達の「風神雷神図屏風」を見て、構図の工夫を話し合う。</p> <p>○俵屋宗達が風神と雷神を画面の隅に描いた理由を考える。</p> <p>○狩野永徳「唐獅子図屏風」を見て構図の工夫を話し合う。</p> <p>○学習を振り返り、画面に描かれているものやそのポーズ、折りによる空間や奥行き、構図、余白の表現などに作者の意図が隠されていることを確認する。</p>	<p>・ 7世紀に朝鮮半島から入ってきた屏風の役割を確認させる。</p> <p>【評】屏風の表現のよさや見え方の変化などに関心を持ち、意欲的に鑑賞に取り組む活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・ 琳派と狩野派の二人の代表作を鑑賞させて、特徴を探らせる。</p> <p>・ 見たものをそのまま描いたのではなく、デザイン性があることに気付かせる。</p> <p>・ 俵屋宗達の「風神雷神図屏風」を鑑賞し、気が付いたことを発表させる。</p> <p>・ 「造形的な視点」を確認させる。</p> <p>・ 風神と雷神が画面の隅に配置されている理由を考えさせる。この時、教科書の2次元コードを読み取り屏風の特性を考えたり、教科書を折り曲げたりしながら、その理由を考えさせる。</p> <p>【評】屏風の表現のよさや美しさ、余白や折りなどの作者の意図と工夫、美術文化について考え、鑑賞する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・ 折りによる空間や奥行き表現を工夫し、デザイン性を重視した構図を再確認させる。</p> <p>【評】折りによる空間や奥行き、構図、余白の表現などに着目し、その効果をとらえる活動を通して「知識・技能」を評価する。</p>

【 備 考 】

7世紀頃に朝鮮半島から伝えられた屏風には、部屋の仕切りや風よけの役割とともに、美しい絵が描かれ、美術品としても愛されてきた。折り曲げて飾られる屏風は、折ることで立体感が生まれ、さらに正面からだけでなく左右に視点を変えることで絵に変化が生まれ、鑑賞者が楽しめるように工夫されている。

電気がない時代にどのように屏風が活用されたのかを2次元コードで読み取ることで、臨場感を感じる効果がある。そして、俵屋宗達や狩野永徳の屏風の特徴はその大胆なデザイン性によってろうそくの火での鑑賞でも見るものへ感動を与える。本題材では、構成といった作者が屏風にしかけた工夫を仲間とともに読み解き、作者のねらいに迫る楽しさを感じ取れるよう指導したい。